

山梨県農政部試験研究機関（水産技術センター）評価委員会

1 評価委員

岩田智也	学識経験者・研究	山梨大学生命環境学部環境科学科 教授
三浦 久	流通・生産	山梨県漁業協同組合連合会 副会長
古菅一芳	流通・生産	山梨県養殖漁業協同組合 組合長

2 課題評価委員会

(1) 第1回 令和2年8月26日（水） 水産技術センター本所会議室

事前評価課題「コクチバス効率的駆除技術の開発」 研究員 谷沢弘将

研究の必要性	4.7
研究内容の新規性	4.0
研究目標、研究計画の妥当性	4.0
研究予算、研究体制の妥当性	4.0
総合評点	4.2

評価所見

県内各地で深刻な漁業被害が懸念されるコクチバスに対して、効率的な駆除技術を開発し、得られた成果は今後行う駆除事業に反映させ、水産資源の保全による内水面漁業の振興に繋げていきたい。また、研究計画の策定にあたっては、国の研究機関や他県水試との情報交換を進め、研究内容の充実に向けて検討を行いたい。なお、稚魚流出への対応の検討も進めていきたい。

(2) 第2回 令和3年1月21日（木）～29日（金）

※新型コロナウイルス感染症対策のため書面方式により開催した

事後評価課題「ブラウントラウト完全駆除技術の開発」 主任研究員 名倉 盾

研究目標の達成度 4.3

評価所見

B河川においてはブラウントラウトの完全駆除を達成し、今後の外来魚対策と在来魚保全に繋がる有益なデータが得られたが、A河川では完全駆除を達成することはできず、在来魚に影響を与え続けることが想定される。今後は、養殖場からの逃亡、漁業権漁場からの散逸及び密放流等の防止を進めるとともに、関係機関と連携しブラウントラウトへの漁業権設定についての検討を行いたい。漁協には日常的な漁場管理の一環として早期発見を徹底するとともに、実際の駆除にあたっては、今回の成果をもとに具体的な駆除方法や留意点等について指導して行きたい。